

平成 17 年 6 月 23 日

朝永振一郎博士生誕 100 年記念事業の実施について

1 趣旨

- ① 平成 18 年（2006 年）3 月 31 日は、朝永振一郎博士の生誕 100 年に当たります。

朝永博士は、湯川秀樹博士に次いで、日本人として 2 番目のノーベル賞を、昭和 40 年（1965 年）に受賞され、素粒子物理学の理論的研究を中心とする、理論物理学の研究に大きな業績を残されました。第二次大戦中から戦後にかけて困難な状況の中で、場の理論の相対論的共変性を明確に捉える超多時間理論を発表され、またこの理論を発展させて、電磁相互作用の場の理論の無限大の困難を解決する繰り込み理論を建設されました。現在、場の理論と繰り込み理論は、素粒子・原子核のみならず物性物理学においても、基礎となる理論的枠組みを提供しており、現代物理学の最も重要な柱の一つとなっています。

- ② 朝永博士は、昭和 16 年（1941 年）に東京文理科大学教授に就任され、戦後は学制改革により東京教育大学となった同大学において研究を進められました。超多時間理論、繰り込み理論はその間に発展させられたものです。また、昭和 31 年（1956 年）から 37 年（1962 年）まで東京教育大学長を努められ、その後も昭和 44 年（1969 年）に退職されるまで、同大学教授並びに附属光学研究所長を努められました。

- ③ 朝永博士は、科学行政においても大きな足跡を残されました。我が国における素粒子・原子核の実験研究の基盤となった、昭和 31 年（1956 年）の東京大学原子核研究所の設立には中心となって活躍され、また昭和 38 年（1963 年）から昭和 44 年（1969 年）まで日本学術会議会長として、科学技術の推進と平和利用に力を尽くされました。

- ④ この間に、朝永博士の指導下に育った研究者陣は、素粒子理論から物性理論に及び、東京教育大学物理学教室を大きく発展させました。その系譜は、筑波移転と筑波大学の設置を経て、現在に至るまで、本学物理学系、さらには数理物質科学研究科物理学専攻へと引き継がれております。

- ⑤ 朝永博士の生誕 100 年を来年 3 月に控え、東京教育大学を前身とする筑波大学の行事として、広く小・中学生にも理解できる記念事業の実施を検討する、朝永生誕 100 年記念事業実施委員会を設置しました。
- ⑥ 6 月 14 日に実施委員会を開催し、実施計画の大枠を決めたところです。

2 事業プラン

(ア)「朝永振一郎生誕 100 年記念講演会」

博士の人と業績を振り返る一般向けの記念講演会を開催する。

会場は、筑波国際会議場エポカル大ホールとし、平成 18 年(2006 年) 4 月 29 日(土) 午後に約 3 時間で開催を予定。

講演者としては、博士とゆかりの深い、小柴昌俊先生にお願いし、博士の人と学問を伝える記録映画「映像評伝 朝永振一郎」{平成 7 年(1995 年) 山陽映画制作} の上映(約 1 時間) 並びに講演を実施する。

(イ)「湯川秀樹・朝永振一郎生誕 100 年記念特別展示」

京都大学と協力して、平成 18 年(2006 年) 春に、国立科学博物館において、湯川・朝永生誕 100 年記念特別展示を開催する。同展示を、平成 18 年(2006 年) 夏につくば市においても開催することを計画する。京都大学は、平成 18 年(2006 年) 冬に、同展示を京都大学総合博物館において展示する予定であるので、これに協力する。

展示資料は、朝永博士分については、本学朝永記念室に収蔵されている資料を中心に、パネル等を準備する。

(ウ) 青少年プログラム

中高生向けに、朝永博士の人となり、博士の切り開いた素粒子の世界を紹介して、若い人たちに科学を身近なものとする。

近隣の中学・高校への出前講義
自然学類体験学習での特別講義
等々を計画中。

(エ)「朝永振一郎生誕 100 年記念シンポジウム」

物理学の大学・研究機関関係者を対象として専門的観点から、博士の人と業績を回顧し、将来への展望を考えるシンポジウムを

開催する。講演者として、博士とゆかりの深い方々を、外国及び国内から招聘し、平成 18 年（2006 年）3 月から 4 月に開催を計画する。

(オ) 朝永振一郎博士総合ホームページ開設

生誕 100 年記念事業の紹介のほか、略歴・主要業績紹介、朝永記念室紹介などをまとめた総合的ホームページを作成。朝永振一郎博士の業績を広く発信し続ける拠点とする。

以上

問合せ先：筑波大学総務・企画部広報課

電話 029-853-2040

FAX 029-853-2014

朝永博士の経歴 1906～1979

- 1906 (明治39年)3月31日、哲学者朝永三十郎博士の長男として東京に生れる。
- 1912 本郷の誠之小学校に入学。
- 1913 京都に移る。錦林小学校に転校。
- 1918 京都府立第一中学校に入学。
- 1923 第三高等学校に入学。
- 1926 第三高等学校卒業、京都帝国大学理学部物理学科に入学。
同級に湯川秀樹博士。
- 1929 同大学を卒業し無給副手となる。
- 1932 理化学研究所仁科研究室に入る。東京へ転居。
- 1937 ドイツ・ライプツヒ大学のハイゼンベルグ教授のもとに留学。
原子核理論、中間子論を研究する。
- 1939 第二次世界大戦の勃発とともに帰国。
「核物質に関する研究」により理学博士の学位を取得。
- 1941 東京文理科大学教授となる。
中間子論の展開、超多時間理論の研究を開始。
- 1946 磁電管、立体回路の研究をまとめる。
「中間子論の発展と超多時間理論」により朝日文化賞受賞。
- 1948 「くりこみ理論」にとりくむ。「磁電管の発振機構」の研究により日本学士院賞受賞。
- 1949 東京教育大学教授となる。
アメリカ・プリンストン高級研究所長オッペンハイマー博士に招かれて渡米。「多体問題」の研究を開始。
- 1950 帰国。
- 1951 日本学士院会員に選ばれる。
- 1952 文化勲章受賞。
- 1956～1962 東京教育大学長をつとめる。
- 1963～1969 日本学術会議会長、東京教育大学附属光学研究所長をつとめる。
- 1964 物理学における業績により、ソ連科学アカデミー・ロモノソフ・メダル受賞。
- 1965 量子電気力学に関する業績により、ノーベル物理学賞受賞。
- 1969 東京教育大学を定年退官し、同大学名誉教授となる。
- 1976 勲一等旭日大綬章受賞。
- 1979 7月8日逝去。
- 1980 著書「物理学とは何だろうか」により大佛次郎賞受賞。